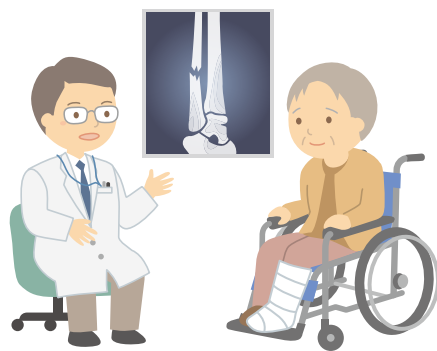




骨軟部腫瘍

整形外科 医長 稲谷 弘幸



整形外科では骨折や捻挫、背骨や四肢の痛みやしびれを診るほか、骨軟部腫瘍という、骨、脂肪、神経、筋肉、腱などに行ける腫瘍にも対応します。骨軟部腫瘍にも良性和悪性のものがあり、良性腫瘍は原則として体の他の部位に転移しないのに対して、悪性腫瘍は転移をして生命に関わることがあります。頻度としては多くないものの、早期診断がより良い結果につながるため、体にコブやしこりが出てきた場合は受診することをお勧めします。

整形外科では骨折や捻挫、背骨や四肢の痛みやしびれを診るほか、骨軟部腫瘍という、骨、脂肪、神経、筋肉、腱などに行ける腫瘍にも対応します。骨軟部腫瘍にも良性和悪性のものがあり、良性腫瘍は原則として体の他の部位に転移しないのに対して、悪性腫瘍は転移をして生命に関わることがあります。頻度としては多くないものの、早期診断がより良い結果につながるため、体にコブやしこりが出てきた場合は受診することをお勧めします。

特に痛みやしびれを生じるものは手術による摘出が選択されます。悪性の骨軟部腫瘍は、発生した部位が骨や軟部組織であれば肉腫と呼ばれ、骨肉腫、脂肪肉腫などがあります。痛みなどの症状がないからと放置して大きくなるまで受診されることが多く、手術により皮膚、筋肉や神経、血管と一緒に大きく切除することになるため術後の機能が低下するばかりか、受診が早ければ防ぐことのできた転移を生じる可能性があります。手術や化学療法、放射線療法などの研究や技術の進歩により、患肢切断が必要になることは少なくなり、感染症などの合併症の発生率の低下、合併症に対する治療法の進歩、生存率の向上がもたらされていますが、治療の出発点は患者さんの受診からであり、早期の受診がより良い結果につながることを心に留めておいてください。